

令和3年度 決算報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

* 千円未満四捨五入

(1) 経常収益は、前期より2568万5千円増の4996万9千円でした。大幅増の要因は、令和3年末に1250万円の遺贈を受領したほか、クラウドファンディング等による寄付879万8千円、日本財団による助成1044万円を得たことによるものです。

(2) 遺贈分と日本財団による助成を除く経常収益の主な内訳は

- ① 基本財産運用益 国債などの受取利息692万1千円
- ② 受取会費 毎日新聞社、東京放送、毎日放送の各賛助会員から912万5千円
- ③ 受取寄付金 クラウドファンディング等829万2千円、朝日生命から50万6千円の計879万8千円
- ④ 事業収益 武蔵野市認知症相談事業収益の151万8千円、財団報売上65万6千円など計218万5千円

—となつています。

(3) 経常費用は事業費が2915万2千円、管理費が437万1千円の計3352万3千円で、前期比76万7千円増となりました。前期は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って電話相談事業を2カ月休業し、その分経費がかからずに済んでいました。当期は電話相談の時間こそ短縮したものの、休業は避けたことから経費は通常の水準に戻りました。そのことが前期より経費が増えた要因です。主な経常費用(事業費、管理費合算)は諸謝金981万1千円、賃借料528万2千円などです。

(4) これらの結果、経常収益から経常費用を差し引いた当期経常増減額は、評価損益等調整前で前期より2491万7千円改善し、1644万6千円のプラスとなりました。一方、商船三井を除く保有債券すべての時価が原価を下回ったことなどから、評価損益等調整後は改善幅が1298万6千円にとどまり、1563万円のプラスでした。

(5) 経常外収益、及び経常外費用はともにありませんでした。

(6) 当期末の資産は、流動資産が前期比744万円増の3671万9千円となっています。一方、固定資産は基本財産が前期比で127万円減の5億4360万4千円となりました。減少幅は有価証券の評価損分に相当します。固定資産として、特定資産「電話相談事業積立資産」836万8千円を新設しました。寄付、助成で得た剰余金のうち、電話相談事業で使うリース資産462万5千円を除いた分を積み立てています。資産合計は5億945万2千円、負債合計は488万4千円で、この結果正味財産合計は前期比1563万円増の5億8966万8千円となっています。